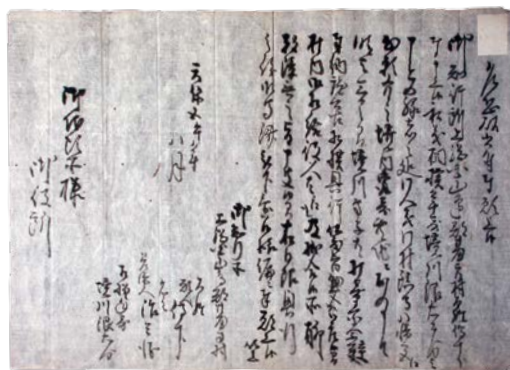
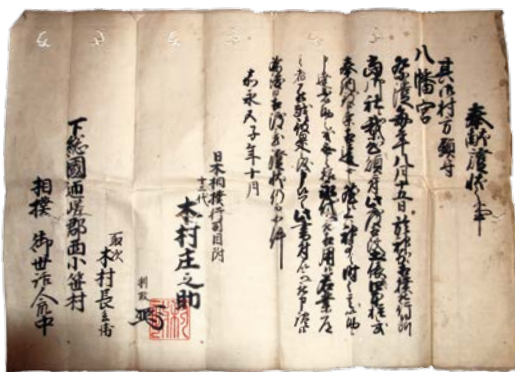




番付 江戸時代 個人蔵文書館保管
江戸時代後期に佐倉新町円覚寺で行われた興行の番付。



東金での興行願
天保5年(1834)
前嶋家文書 文書館蔵
境川浪右衛門の縁者にあたる伝十郎が興行主であり、神社へ奉納する名目で開催許可を願っている。素人を交えないことや晴天3日間という期限を厳守するとしている。



西小笹八幡宮の祭礼相撲証状 嘉永5年(1852) 八幡神社蔵・匠達市西小笹
毎年開催される8月15日の祭礼相撲について、西小笹の相撲世話人等が、日本相撲行司目付12代木村庄之助から公認を与えられた証状。



相撲引き札 江戸時代 個人蔵文書館保管
武蔵・上総・下総・常陸の寄相撲とあり、どんすや木綿が賞品となっている。

①境川浪右衛門 相撲博物館蔵

天保14年(1843)に市川市高谷に生まれる。本名宇田川大次郎。15歳の時に境川に弟子入り、慶応2年(1866)に姫路藩の抱え力士となり増位山となる。明治3年(1870)尾張藩抱えに替わり、境川となり大関に昇進。明治9年35歳で第14代横綱となる。

②小錦八十吉 成田山霊光館蔵

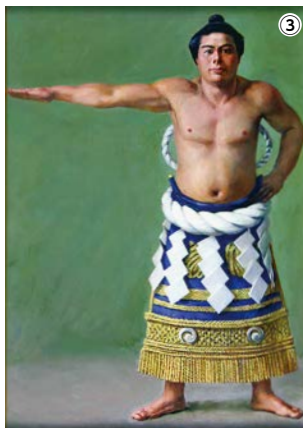
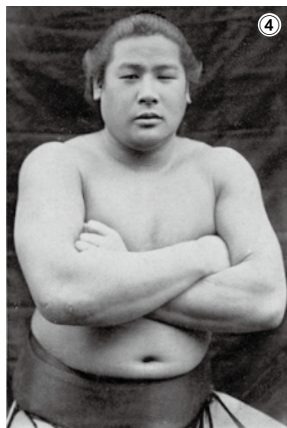
慶応2年(1866)に横芝光町に生まれる。本名岩井八十吉。第17代横綱となる。身長168cmで史上2番目に背の低い横綱と言われる。

③若島権四郎 相撲博物館蔵

明治9年(1876)市川市原木に生まれる。本名加藤大五郎。大阪相撲で大関となり同38年に28歳で第21代横綱となる。

④鳳谷五郎 相撲博物館蔵

明治20年(1887)に印西市大森に生まれる。本名滝田明。15歳で鳳凰に入門、27歳で第24代横綱となる。



3 千葉の力士たち

海と川に囲まれた房総地方では、力自慢の船乗りたちが各地の草相撲で活躍していました。地域で名を挙げた彼らは、相撲興行で目にする華やかな江戸の力士に憧れ、多くの若者が角界入りしていきました。これまで房総からは、境川浪右衛門(市川市)、小錦八十吉(横芝光町)、若島権四郎(市川市)、鳳谷五郎(印西市)の四人の横綱が生まれており、また、平成二十九年九月場所では、二十人以上の千葉県出身力士が活躍するなど、千葉県は非常に相撲が盛んな県といえます。